ニュース一覧

令和元年度　修了・卒業記念撮影用パネルの設置について

投稿日時：2020.04.02　ニュース

修了生・卒業生及びご家族の皆様

　先に連絡をしておりました、修了・卒業記念撮影用パネルの設置を３月２６日（木）に行いました。
正面玄関および青年の像脇にそれぞれのバージョンがありますので、お撮り逃しなく、ご利用ください。
パネルは、５月２２日（金）まで設置しております。

青年の像脇の撮影用パネルです。

「福島高専における授業の開始等に向けた基本方針」について

投稿日時：2020.04.04　ニュース

令和２年４月４日

学生・保護者及び関係各位

福島工業高等専門学校
リスク管理室

福島高専では、４月６日からの新学期開始にあたり、「福島高専における授業の開始等に向けた基本方針」を策定しましたのでお知らせします。
新型コロナウイルスへの対策として、日常に３つの条件（換気の悪い密閉空間，多くの人が密集，近距離での会話や発話）が重なることを回避する対策を行うなど、学習活動の特徴に応じて感染拡大の防止の措置を講じ、対策を徹底したうえで授業を開始して参りますので、ご理解とご協力をよろしくお願いします。
なお、状況の変化に応じて今後の対策を変更する場合がありますので、ご了承ください。

○福島高専における授業の開始等に向けた基本方針.pdf

4/6（月）始業式について

投稿日時 : 2020.04.05　ニュース

在校生の皆様にお知らせ申し上げます。

始業式の登校にあたりましては、全員マスクの着用をお願いいたします。

通常授業開始の延期について

投稿日時：2020.04.06　ニュース

令和２年４月６日

学生・保護者　各位

福島工業高等専門学校
リスク管理室

新型コロナウイルスの急激な感染拡大に伴い、通常授業の開始を
２週間程度延期し、４月２０日以降の開始といたします。

今後の予定に関しては、Office365及びホームページへの掲載により
連絡しますので、随時確認するようお願いします。

授業日程の変更に伴う閉寮について

投稿日時：2020.04.07　ニュース

令和２年４月７日

授業日程の変更に伴う閉寮について

寮生保護者の皆さま

寮務主事　松江　俊一

今般の福島県内における新型コロナウィルスの感染者の急増を受けて、福島高専では、以下のとおり決定しました。

（１）　４月６日（月）の始業式及びオリエンテーションは予定通り行うが、通常の授業の開始を４月２０日以降とする。

（２）　４月７日（火）及び８日（水）を登校日として、学年やクラスごとにoffice365やTeams等に関するガイダンスを実施する。

つきましては、寮も臨時閉寮とすることになりました。急な決定となったため、保護者の方の迎えの都合等を考慮し、帰省期限を<u>４月１２日（日）１０時まで</u>猶予をとります。速やかにお子様と連絡をとり、４月７日（火）、８日（水）のガイダンスが終了し次第、お子様を伴ってご帰宅いただけますよう、お願い申し上げます。

食事について

・８日まではメニュー表の通りに給食します。

・９日以降については在庫している食材を主に使っての提供となりますので、別メニューとなります。夕食の主菜も単品となります。

・食事の提供数の見積もりを把握するために、できるだけ速やかにお子様と相談して帰寮日時を決め、お子様を通して寮事務室に伝えてください。

諸注意とお願い

・お子様の迎えが１２日（日）１０時までにどうしても迎えに来れない場合は、松江までご相談ください。寮事務室　０２４６－４６－０７３７

・自宅では不要不急の外出は避け、健康・行動の管理を誠実に行うようご指導ください。
なお、帰寮日時については学校からの授業再開予定日の連絡があった後に、松江からお子様方にメールでお知らせしますので、それに従って帰寮するようにしてください。

本校専攻科OBが2019年電気学会産業応用部門優秀論文発表賞を受賞

投稿日時：2020.04.09　ニュース

専攻科産業技術システム工学専攻・エネルギーシステム工学コース2年に在学していた板坂年希さんが，電気学会リニアドライブ研究会で2019年1月に発表した論文に対して，「2019年電気学会産業応用部門優秀論文発表賞」を2020年3月31日付で受賞しました。受賞論文は板坂さんが専攻科1年在学時の研究成果をまとめた「同期回転機構を備えたシリンダ形状永久磁石型リニアHalbachアレイの磁場スライドの予備観察」です。

この研究では，世界で初めて設計製作した「同期回転機構をもったシリンダ形状永久磁石型のHalbach配列」によって「形成される磁場のスライド」を初めて公開したもので、研究会発表当日には「バルク超電導体のピン留め効果を利用した磁場スライドの動的観察」についても報告しました。電気学会では，100周年事業の一環として、35歳以下の若手研究者に対し全国大会や研究会において優れた論文発表をした者を対象に優秀論文発表賞を授与しています。板坂さんは、この電気学会・研究会以外にも、2019年7月、スイス・EPFL（スイス連邦工科大学ローザンヌ校）・ヌシャテールキャンパスで開催された「産業応用リニアドライブ国際会議：LDIA2019」でも口頭発表し、その発表内容は大変好評でした。2020年4月からは北陸先端科学技術大学院大学に進学していますが、今後も活躍が期待されます。

（受賞した板坂さん（中央）、指導教員の鈴木教授（左）と伊藤教授（右））

来校者用受付の設置について

投稿日時：2020.04.09　ニュース

　福島高専では、新型コロナウイルス対応の一環として、
正面玄関に受付を設置いたしました。
　来校者の皆様におかれましては、次の点にご協力くだ
さいますようお願いいたします。

・正面玄関からの入場

・受付での「来校者受付簿への記帳」及び「来校者カード」の着用

・訪問先（担当教員、担当課等）への事前連絡

また、マスク着用、アルコール消毒への取組にもご協力をお願いします。

令和２年度公開講座等の中止について

投稿日時：2020.04.14　ニュース

福島高専では、地域貢献活動として公開講座や学校開放事業、出前授業等を開催しております。しかし、今年度においては、新型コロナウイルス感染症対策のため、当面は公開講座等を中止することといたしました。

再開することが決まりましたら改めてお知らせいたします。

楽しみにしていただいた方々には申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【担当・問い合わせ】

総務課地域連携係

TEL：0246-46-0719

Mail：liaison_office@fukushima-nct.ac.jp

（企業の皆様へ）面談等での来校について

投稿日時：2020.04.21　ニュース

現在、本校では新型コロナウイルス感染拡大防止のため不要不急の来校はご遠慮いただいております。研究や就職関連で教職員との打ち合わせ等を希望する場合も、電話やメールを使用していただき、来校は控えるようご協力をお願いいたします。

なお、急を要する面談をご希望の場合は、事前に下記担当係までご連絡ください。

（研究に関すること）
総務課地域連携係
TEL：0246-46-0719
Mail：liaison_office@fukushima-nct.ac.jp

（就職に関すること）
学生課学生支援係
TEL：0246-46-0734
Mail：syusyoku@fukushima-nct.ac.jp

令和２年度後援会役員会及び定期総会の実施方法の変更について

投稿日時：2020.04.30　ニュース

令和２年４月３０日

保護者　各位

福島工業高等専門学校
後援会会長　関　根　　　匡
校　長　　　山　下　　　治

　福島高専では、新型コロナウイルス感染症への対応として、政府等の方針及び国内の状況を踏まえ、これまで通常授業開始の延期や各種行事の開催方法の見直し等、感染拡大の防止に向けた措置を行っているところです。つきましては、同様の趣旨から、今年度の後援会行事の実施方法について、下記のとおり変更することとしましたのでお知らせします。
　なお、令和２年度予算の執行に当たりましては、今後の見通しが不透明な状況であるため、大幅な変更等が生じた際には、三役会議にて審議の上、対応させていただきたく存じますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

記

１．後援会役員会
　書面表決により実施することとし、後日役員の皆様へ文書を送付します。
２．後援会総会
　予算、決算及び役員名簿等の送付をもって報告とします。

専攻科修了生が令和元年度日本原子力研究開発機構福島研究開発部門成果報告会のポスター発表で理事長賞を受賞

投稿日時：2020.04.30　ニュース

専攻科ビジネスコミュニケーション学専攻２年生の嘉齊澪（かさいみお）さんが、令和２年２月２７日に開催中止となった日本原子力研究開発機構、令和元年度福島研究開発部門成果報告会ポスター発表に係る書類選考の結果、同機構理事長賞を受賞しました。

嘉齊さんの発表は、「除染除去土壌再生利用に対する理解醸成アプローチ」と題し、福島第一原子力発電所事故の影響により大量に発生した除染除去土壌の再生利用について、学生による再生利用理解醸成アプローチのモデルを考案し、フィールドワークや共同教育プログラム、米国学生との意見交換や地元住民との勉強会などを通じて理解を深める取組をポスターにより報告するものでした。

社会的な視点からの唯一の研究発表であり、地域住民の理解醸成を図る取組であることが高く評価され今回の受賞となりました。

報告会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から急遽開催中止となったことから、発表予定のポスターによる審査となり、賞状及び副賞は本校に届けられ嘉齊さんにお渡ししました。

（受賞した嘉齊さん）

今年度の高専体育大会の中止について

投稿日時：2020.05.22　ニュース

　新型コロナウイルスの感染拡大を受け、７月に開催予定の東北地区高専体育大会ならびに８月から９月に開催予定していた全国高専体育大会は中止となりましたのでお知らせいたします。

　なお、冬季開催のラグビーの実施については今後の状況を踏まえて判断することになっております。

　大会運営のためにご協力いただく予定だった関係者や地域の皆様、観戦を楽しみにしていただいた方々には残念ではありますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染防止のための対策その１

投稿日時：2020.05.26　ニュース

本校の学生課では、新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため、窓口での感染防止対策を行って対応しております。

ソーシャルディスタンス確保のための「フロアサイン」、飛沫感染防止のための「ビニールカーテン」を職員の手作りで用意しました。

来校者の皆さんと職員双方の安全を確保しつつ業務を行って参ります。

（学生課入り口）

（受付窓口）

令和３年度専攻科入学者選抜（高等専門学校長の推薦による選抜）合格発表

投稿日時：2020.05.28　ニュース

令和3年度専攻科入学者選抜（高等専門学校長の推薦による選抜）の合格者を公表いたします。

令和3年度専攻科入学者選抜（高等専門学校長の推薦による選抜）合格者.pdf

大連東軟信息学院（中華人民共和国）からマスクが寄贈されました

投稿日時：2020.06.02　ニュース

新型コロナウイルス感染が世界で拡大する中、本学と連携協力に関する協定を締結している大連東軟信息学院（だいれんとうなんしんそくがくいん）からマスク800枚の寄付の申し出があり、令和2年5月26日に受け取りました。

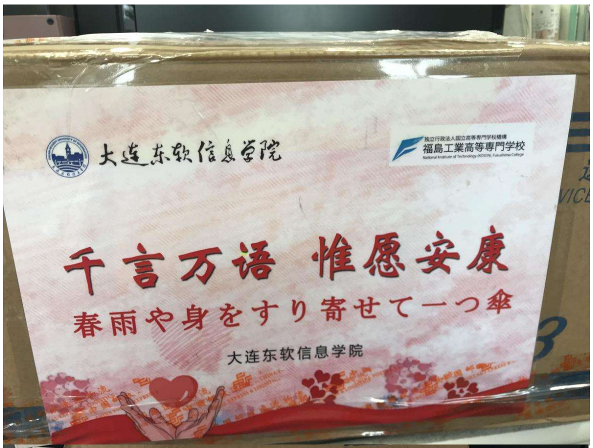
本校と大連東軟信息学院は、平成28年から交流があり、平成29年3月に「福島工業高等専門学校と大連東軟信息学院との連携協力に関する協定書」を締結しました。それ以降、本校の学生を毎年派遣し、昨年までに21名の学生が大連東軟信息学院で語学学習や中国文化研修、IT関連の会社見学等を行っております。

大連東軟信息学院は、中国最大のIT企業であるNeusoftグループが経営する中国の最大のIT専門大学です。

こうした状況下、この度の新型コロナウィルス感染症の影響でマスク不足が続く日本の現状を知った大連東軟信息学院では、「皆さまの日常生活をまもるべくお役に立てればと願い、微力かつ少しではありますが、予防用マスクを贈呈させていただきます。中国では、新型コロナウイルスの流行に勝つための最も困難な時期を過ぎたばかりであり、現在貴学が直面している困難にも理解を共有できる立場にあります。」と励ましの手紙を添えていただきました。

今回届いた箱には「千言万語 惟愿安康」の中国語があり、意味は「たくさん伝えたいことはありますが、泰平をお祈りします。」と書かれておりました。

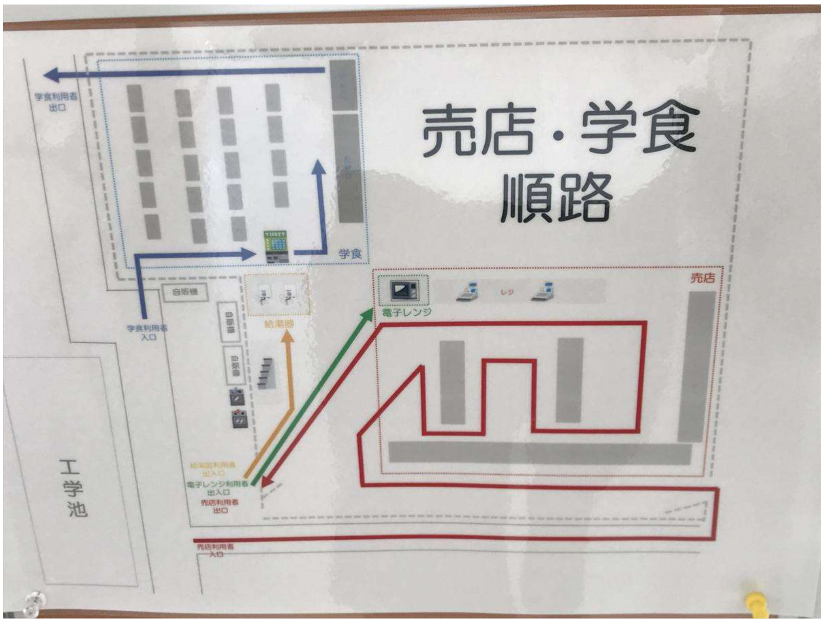
本校では、大連東軟信息学院の温かいご配慮に深く感謝をし、いただいたマスクを、対面授業の際、必要なに学生に配付させていただきます。



新型コロナウイルス感染防止のための対策その２

投稿日時：2020.06.12　ニュース

〇磐陽会館売店及び食堂
【売店及び食堂の順路】
売店及び食堂を導線が重ならない様に一方通行としました。

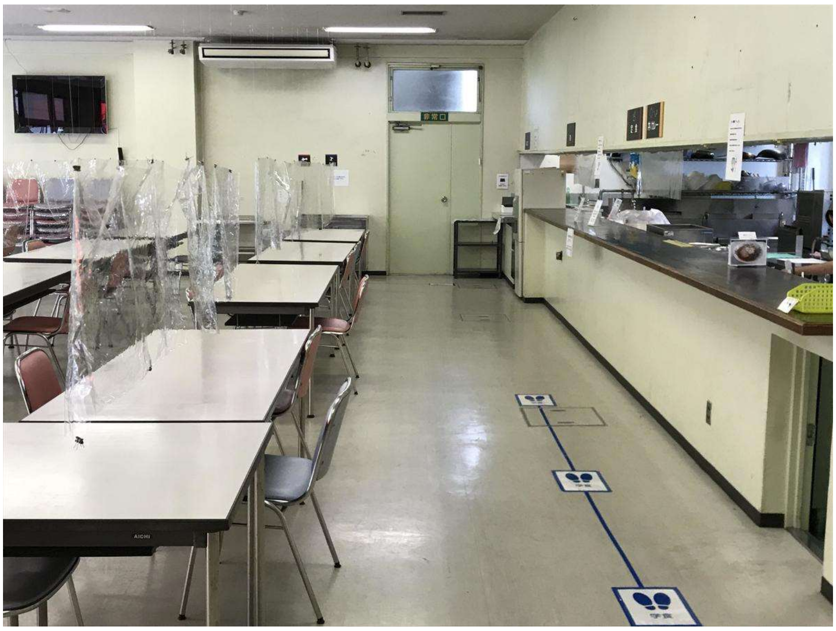


【売店と食堂の入り口を分ける】

【食堂入り口】

【食堂内での食券販売】

【食堂の食券引き換え所】



【食堂の座席を減らしました】

【売店入り口】

【売店レジ】

〇保健室

【保健室の入り口】

【保健室前】

【保健室臨時窓口】

〇情報処理教育センター内及びコミュニケーション演習室
【パソコン設置教室内】
仕切り版を設置しました。授業時は、学生はマスク及びフェイスシールド着用します。

令和3年度専攻科入学者選抜試験（学力試験による選抜）合格発表

投稿日時：2020.06.25　ニュース

令和3年度専攻科入学者選抜試験（学力試験による選抜）合格発表

令和3年度専攻科入学者選抜試験（学力試験による選抜）の合格者を公表いたします。

令和3年度専攻科入学者選抜試験合格者（学力試験による選抜）.pdf

【重要】本日午後以降の日程について

投稿日時：2020.07.08　ニュース

学生・保護者のみなさんへ

【重要】本日午後以降の日程について

浜通り地区に大雨洪水警報が発令されていることから、本日の午後以降の予定を以下の通りといたします。

① 学生は１４時３０分で帰宅してください。

（課外活動・卒業研究・特別研究も禁止です。清掃も中止といたします。）

②　本日予定されていた「ＳＮＳ講座」は中止といたします。

（別日に録画配信等で行う予定です。）

③ １４時３０分以降帰宅が困難な場合は、教室に待機していてください。

令和２年度東北地区国立大学法人等職員採用試験による採用について

投稿日時：2020.07.14　ニュース

こちらからご覧ください。

令和２年度東北地区国立大学法人等職員採用試験による採用について

「JA福島さくら」様から福島県産米の寄贈がありました

投稿日時：2020.07.17　ニュース

ＪＡ福島さくらでは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、保護者からの仕送りやアルバイト収入の減少など、生活に影響が出ている学生を支援しようと県内の高等教育機関の学生を対象に行っているもので今回、本校に県産米３６０キロが寄贈されることになり、贈呈式が、７月１３日（月）に本校会議室で行われました。

贈呈式では、はじめにＪＡ福島さくら管野啓二代表理事組合長から「コロナ禍がいまだに終息が見えてこないところで学生さんも大変のことと思います。特にアルバイトも出来ず、生活も大変だと思います。学生さんには、食の生活支援をと考え、県産米を贈呈します。生産者が一生懸命作ったものなので、食べて元気になっていただければと思います。」の話があり、山下治校長に県産米２キロが手渡されました。
また、同いわき地区本部長根本一雄理事からは、学生代表の小野未沙妃さん（5BC）に同じく県産米２キロ手渡されました。今回学生用に寄贈されたものは、郡山市産のブランド米「あさか舞」２キロ入り８０袋で、４年生から専攻科生の一人暮らしをしている学生やアルバイトを行っている学生で、新型コロナウイルスの感染拡大により収入が減少した者を対象に１袋ずつ配付することとしています。
併せて、親元を離れ寮生活を送っている寮生を元気づけようと学生寮にも地元いわき市産コシヒカリのブランド米「Iwaki Laiki」２００キロが贈られ、こちらは、寮生の代表、齋藤真緒（5BC）さんが受け取りました。

これを受けて山下校長から「今年は、新型コロナ感染拡大の影響から本校学生もアルバイトをしにくくなり、困窮している中、贈呈いただき学生にも多くの励みをいただいたものと思います。学生には、福島を代表する味をしっかりとかみしめると共にこのお米の開発に向けた農家の皆様の思いや、地元の学校・学生を応援してくださるＪＡ関係者様の思いをしっかり受け止め、将来その力を地元に還元して欲しい。」と感謝と学生に対する思いが述べられました。
最後に学生代表の小野未沙妃さんから「今回の支援によりとても勇気づけられました。食の基盤であるお米を大切にいただき、私たちも社会の基盤となる人材になるため、勉学に励みたいと思います。」と感謝の言葉と抱負が述べられました。

管野代表理事組合長（左）から贈呈をうける山下校長（右）

夏季一斉休業のお知らせ

投稿日時：2020.07.28　ニュース

夏季一斉休業のお知らせ

本校では、下記の日程で一斉休業を実施いたします。

記

学校閉鎖期間：令和２年８月１０日（月）～８月１５日（土）
（８月８日（土）、９日（日）、１６日（日）も休日です）

◎緊急連絡先（守衛所）0246-46-0743

機械システム工学科野田助教が、日本機械学会ロボメカ部門優秀論文賞を受賞しました

投稿日時：2020.07.28　ニュース

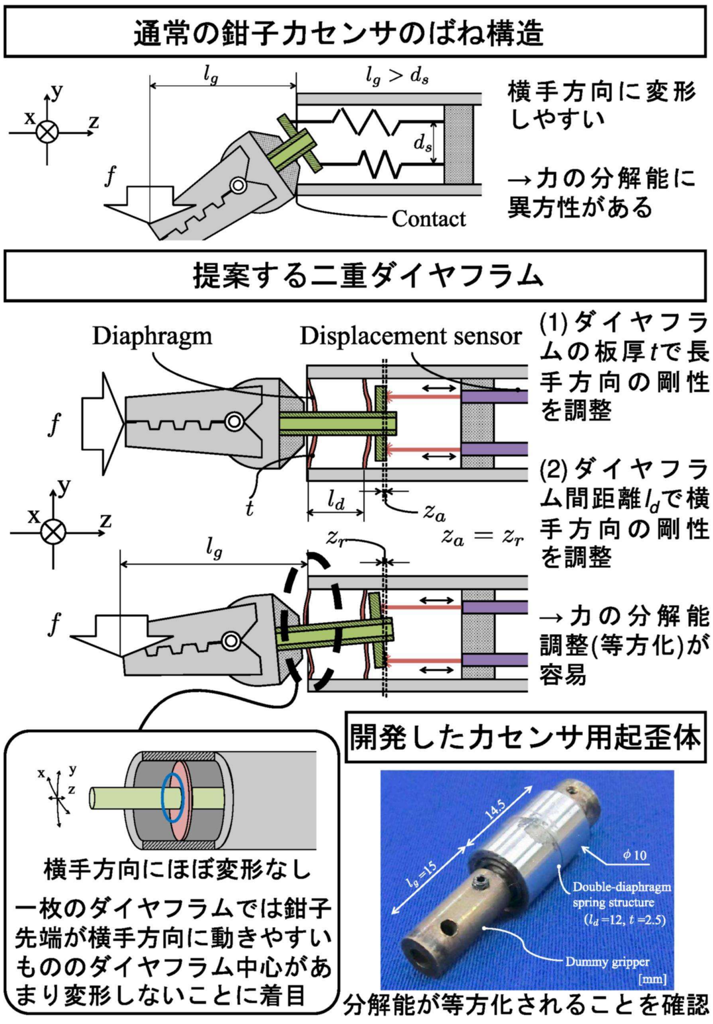
機械システム工学科野田幸矢助教が、日本機械学会ロボティクスメカトロニクス講演会部門優秀論文表彰を受け、このほど山下治校長に受賞の報告を行いました。論文名は「二重ダイヤフラム型起歪体による鉗子力センサの力分解能当等方化」で、野田助教が大学院博士課程在学中からの研究をまとめたものです。
腹腔鏡（ふくくうきょう）※１手術等に用いられる鉗子（かんし）カセンサの起歪体（きわいたい）※３には、鉗子長手方向より横手方向に変形しやすく、長手方向の力の感度が劣化する問題があります。この研究では、二重ダイヤフラム型起歪体を用いることで横手方向の剛性を向上させ、長手方向にも横手方向と同様の感度を持たせることを提案しています。実用化されれば、患者の臓器に必要以上の力をかけることを防ぎ、患者の体や手術する医師への負担軽減が図られるとのことです。
最後に野田助教から「受賞を励みに実用化に向け研究を継続します。」との報告がありました。

※1.腹腔鏡（ふくくうきょう）とは、体表皮膚より腹腔内挿入する内視鏡器具、もしくは手術手技のこと。
※2.鉗子（かんし）とは、物をつかんだり、牽引したりするのに使用する器具。主に手術器具として使う。
※3. 起歪体（きわいたい）とは：カセンサに用いられるばね構造のこと。一般に力を直接計測できないため，ばねを変形させそのときの変位などを計測する。

受賞の報告をする野田助教（中央）報告を受ける山下校長（左）機械システム工学科髙橋章学科長（右）

演　　題:二重ダイヤフラム型起歪体による鉗子力センサの力分解能等方化

研究トピックの図



土木学会誌の学生会員数で本校が掲載されました

投稿日時：2020.07.29　ニュース

本校では，専攻科生を中心に日頃の研究成果を学外で発表する機会を積極的に設けています。
都市システム工学科では，5年生も卒業研究の成果を年度末の土木学会東北支部技術研究発表会で発表しており，近年はその発表件数も増えてきています。
発表するためには，学会の会員になる必要がありますが，今回，土木学会誌（7月号）において，学生会員数30名以上の高等教育機関が紹介されました。
そこに，福島高専（34名）も名を連ねており，数々の大学が並ぶ中でも上位に掲載されています。
現在は，コロナ禍で教育・研究を取り巻く環境も非常に厳しい状況にありますが，学科一体となって工夫して取り組みながら，今後も日頃の教育・研究成果を積極的に発信していきます。

土木学会誌2020年7月号より

学生の採用活動やインターンシップへの学生の参加に係るお願いについて

投稿日時：2020.08.06　ニュース

令和２年８月６日

各企業等の新卒採用担当者　殿

福島工業高等専門学校長
山　下　　治

学生の採用活動やインターンシップへの学生の参加に係るお願いについて
（COVID-19感染拡大防止関連）

平素 本校の運営等におきましてはお世話になり誠にありがとうございます。
さて、皆様方におかれましては現在、新卒者の採用活動やインターンシップ受入れ等を実施するにあたり、既に様々な新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止対策を施されている、または対策を予定されておられることと存じます。
本校では、昨今の国内における新型コロナウイルスの感染者増大を鑑み、学生に対して別添資料「就職活動やインターンシップ等への参加の考え方について（COVID-19感染拡大防止関連）」を配付し、引き続き感染と拡散防止に努めるよう指導をしているところであります。
つきましては、下記内容のとおり本校の考え方等に対し、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

記

１．採用活動やインターンシップ等を対面で実施される場合は、新型コロナウイルス感染等のリスクを下げるため、最大限の対策等（マスクの着用、ソーシャルディスタンス、消毒液の配置等）を実施頂きますようお願いします。

２．今後、新型コロナウイルスの流行等により、国や地方自治体あるいは本校からの行動指針等によって活動に制限がかかり、参加予定の学生が辞退するなども想定されます。その際は、ご配慮いただきますようお願いします。

３．上記に関しご不明な点、ご質問がある場合は、次までお問い合わせください。

（別添資料）就職活動やインターンシップ等への参加の考え方.pdf

<お問い合わせ窓口>
福島工業高等専門学校
◇（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）　学生課教務係
Tel:0246-46-0732　E-mail:kyoumu@fukushima-nct.ac.jp
◇（採用活動）　学生課学生支援係
Tel:0246-46-0873　E-mail:syusyoku@fukushima-nct.ac.jp

本校学生が福島県警察本部からサイバー防犯ボランティアの委嘱を受けました

投稿日時：2020.08.07　ニュース

本校学生有志が「サイバー防犯ボランティア」の委嘱を受けることとなり、８月３日（月）に、本校において「サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」が行われました。

交付式では、笠井哲副校長（学生主事）、島村浩情報処理教育センター長、立合いのもとに、福島県警察本部サイバー犯罪対策室渡辺剛室長から、2年生4名、3年生8名、4年生13名、5年生13名の合計38名の学生代表として、ビジネスコミュニケーション学科５年大平季林さんに委嘱状が手渡されました。

渡辺室長から、「インターネットは便利で、日常生活に欠かせないものになっています。しかしながら、詐欺事件やSNS通じて、児童等が犯罪被害に巻き込まれる事件やSNS上の誹謗中傷が社会問題になっているところです。学生の皆さんには、このような背景を踏まえ、警察と連携して情報交換を図りながら、知識や経験を生かして安心して利用できるインターネット環境作りに貢献してほしい。」と話がありました。

今後、委嘱を受けた学生は、警察と連携し、サイバー防犯ボランティアとして、違法性のある画像や動画などを見つけた場合には、警察に連絡することとしています。

福島県警察本部、いわき中央警察署の皆様と委嘱を受け交付式に出席した学生

渡辺室長から委嘱状を受取る代表学生

中学校等の臨時休業の実施等を踏まえた令和3年度入学者選抜の配慮事項等について

投稿日時：2020.08.17　ニュース

　中学校等の臨時休業の実施等を踏まえた令和3年度入学者選抜の配慮事項等については、下記からご確認ください。

https://www.kosen-k.go.jp/news/detail.html?itemid=7305&dispmid=1240&TabModule1107=0

福島ロボットテストフィールドと連携協定を締結しました

投稿日時：2020.08.28　ニュース

本校は、8月19日（水）、南相馬市にある福島ロボットテストフィールド（以下「ＲＴＦ」）※１と連携協定を締結しました。

ＲＴＦは、福島イノベーション・コースト構想※２に基づき福島県南相馬市・浪江町に整備され、陸・海・空のフィールドロボットを対象とし、実際の使用環境を再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる研究開発拠点として、令和2年3月31日に開所した。

連携協定は、ＲＴＦを活用した社会基盤メンテナンスに関する研究開発及び人材育成並びに福島イノベーション・コースト構想の推進を図ることを目的としております。

今後は、地域の若手技術者を対象としたリカレント教育※３の実施や、本校の学生教育や研究開発等を行う予定です。

協定締結にあたって山下治福島高専校長は「連携を強化し、福島浜通りの復興、そして福島浜通りの持続可能な発展に、より一層寄与していきたい。」と挨拶しました。

締結式後には記念公開講座が開催され、本校都市システム工学科の江本久雄准教授が講師となり、近接目視点検についての講義を行いました。

鈴木真二RTF所長㊨と山下治福島高専校長

記念公開講座の様子

※１福島ロボットテストフィールド

※２福島イノベーション・コースト構想

※３リカレント教育

令和３年度編入学者選抜合格発表

投稿日時：2020.09.04　ニュース

令和３年度編入学者選抜の合格者を公表いたします。

令和３年度編入学者選抜合格者.pdf

令和２年度名誉教授称号授与式を挙行しました

投稿日時：2020.09.04　ニュース

令和２年８月２８日（金）に学内小会議室において令和２年度名誉教授称号授与式を行い、在職時の教育・学術上の功績及び卓越した学校運営に対し、前校長の中村隆行氏に名誉教授の称号が授与されました。

中村前校長は、平成26年4月から平成30年3月までの4年間、第8代校長として在職し、本科及び専攻科の改組やグローバル化推進センターの設置など、多岐にわたる教育基盤の充実に尽力されました。

式では、３主事及び事務部長の立ち会いのもと、山下校長から称号記及び記念品が贈呈され、在職中の多大な貢献への感謝とお祝いの言葉を述べられました。

授与式終了後、校長室で昼食をとりながらの和やかに懇談会が行われました。

（前列右側から：中村隆行名誉教授と山下治校長）

【重要】９月２４日（木）及び２５日（金）の臨時休校について（お知らせ）

投稿日時：2020.09.23　ニュース

学 生・保護者　各位

校　長

９月２４日（木）及び２５日（金）の臨時休校について（お知らせ）

台風１２号の影響によりJRの計画運休が行われます。
これにより、９月２４日（木）及び２５日（金）は臨時休校とします。
両日とも授業を休講とし、クラブ活動も中止とします。
なお、休講となった授業の補講は別途お知らせします。

２０１９年ノーベル化学賞受賞者吉野彰先生との懇談会を開催

投稿日時：2020.09.30　ニュース

令和２年９月１８日に２０１９年ノーベル化学賞を受賞した、旭化成名誉フェローの吉野彰先生が本校を訪問され、改修された図書館棟プレゼンテーションルームで代表学生との懇談会が開催されました。吉野先生は、別イベントでのいわき市訪問にあわせ、吉野先生と親交のある福島高専協力会会長庄司秀樹氏（東洋システム（株）代表取締役）のご尽力により実現したもので、新型コロナウイルス感染防止の観点から、各クラス代表約３０名が参加し、行われました。

懇談会では、はじめに山下校長の歓迎のあいさつと学校紹介が行われ、吉野先生からは、「以前、小名浜にあった旧旭化成工業の工場に数回来たことがあること、昨年１１月にもいわき市を訪問したこと」などの紹介があり、今日はかしこまらず、フランクに懇談したいとのご挨拶がありました。 次に学生代表の２名から、本校での研究内容等について、プレゼンテーションが行われました。

機械システム工学科４年生の猪狩涼さんからは、「第４回廃炉創造ロボコン成果報告」が、専攻科社会環境システム工学コース２年の小林千莉さんからは、原子力発電所事故で発生した除去土壌の再生利用に関する研究「若者からみた福島の復興・環境再生」についての発表が行われ、吉野先生から研究内容についての質問やコメントをいただきました。

引き続き吉野先生との懇談となり、学生からは吉野先生の学生時代のことや企業での研究及びノーベル賞受賞に至る研究成果等についての質問が途切れることなく出され、予定時間を大幅に超えて、吉野先生から回答やアドバイスをいただきました。その中で、「勉強や研究を進めていく上で、壁にぶち当たるが、これは宿命。未来への強い信念を持って乗り越えてほしい」との言葉が印象的でした。 最後に参加者全員で記念撮影を行い、懇談会は終了しました。

本校での懇談会の前には、磐城高校において吉野先生が参加して、「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現について話し合う特別授業が行われ、磐城高校の１年生や福島高校、安積高校及び勿来工業高校の代表者を前にビジネスコミュニケーション学科２年生の白石遥菜さん、斎藤葵さん、馬場綾音さんの３名が、他高校生と共に課題解決のアイデアを発表し、吉野先生から助言をいただきました。

(吉野先生（左）と山下校長)

（学生の質問に答える吉野先生）

（記念撮影）

本校OB小松道男氏（小松技術士事務所長）が型技術協会「技術賞」を受賞しました

投稿日時：2020.09.30　ニュース

本校OBで専攻科非常勤講師の小松道男先生が、一般社団法人型技術協会による第30回型技術協会「技術賞」を受賞し、このほど山下校長への受賞報告のため来校されました。この賞は、特に優れた貢献度の高い型技術の開発者に贈られるもので、先生は、サトウキビの糖などを原料にしたポリ乳酸を使用した容器の形成技術の開発が高く評価され、この度の受賞となりました。植物由来のポリ乳酸は加工が難しい一方、バクテリアによって生分解されるため、この技術は、環境問題の解決に貢献するものとして世界的にも関心が寄せられています。この度の受賞は、持続可能な社会発展に貢献できる技術者の養成を目指す本校にとって励みとなるものであり、本校では引き続き、様々な課題に挑戦できる「高専スピリッツ」を備えた学生の育成に努めていくこととしています。

受賞の報告に訪れた小松氏（左）と山下校長（右）

（テーブル上のグラス類は、小松氏が開発した技術により製造された品々）

福島 NEWS WEB で関連記事が紹介されました。（令和2年10月21日まで掲載）

「ものづくり名人」最高賞も受賞

自走式スマートモビリティ「INMOTION」の寄贈について

投稿日時：2020.10.01　ニュース

本校は、9月25日、株式会社A.M.Y.クリエイティブ（本社：いわき市泉、東京支社：新宿区）の代表取締役・山梨智哉様から、自走式スマートモビリティ「INMOTION」5台の寄贈がありました。
同社は、東日本大震災からの「東北・福島県・いわき市の復興、活性化へ貢献する」ことを目的に、2012年6月に設立され、ＩＴソリューション、システム開発及びこの度ご寄贈いただいた「INMOTION」の正規販売店として事業を展開されております。
この度、スマートモビリティの機構、駆動・制御システムなどの知識、技術の教育と研究に役立ててほしいという目的で寄贈されたものです。
今後、本校の機械システム工学科、電気電子システム工学科を中心に講義、実習、卒業研究等で活用していく予定です。

左：山梨智哉様　右：山下校長

令和２年度磐陽寮寮生会長任命書交付式を行いました

投稿日時：2020.10.07　ニュース

10月１日（木）に校長室において、山下校長から磐陽寮（学生寮）の新しい男女寮長に任命書が交付されました。

校長から、「日常を大切にすることが重要と心がけ、コロナ禍という歴史的な状況であるが、この非日常を日常に変え、平穏な寮生活が出来るように協力願いたい。」と述べられました。

交付式後に、佐藤寮長（男子）は、「寮生の意見を取り入れて心地よい寮生活を目指します。」　猪俣寮長（女子）は、「寮生会役員で協力・助け合いながら、全寮生が平穏な日々を送れるように頑張りたいと思います。」とこれからの目標を話しました。

今回の任期は、令和２年10月1日から令和3年9月30日までの1年間となります。

右から　男子寮生会長：佐藤廣太さん　山下校長　女子寮生会長：猪俣里奈さん

寮のホームページにリンクします。

高専ロボコン2020　東北地区大会　ライブ配信のご案内

投稿日時：2020.10.15　ニュース

　令和2年10月18日(日)、「第33回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト２０２０東北地区大会」が開催され、当日の様子はライブ配信される予定です。
　今年度は、新型コロナウイルスの状況を考慮し、初めてのオンライン開催となります。本校からは、3チームが出場し「アイデア対決」へ挑みます。

　大会の当日の模様は、当日午前9時30分から「ロボコン公式You Tubeチャンネル」にてライブ配信予定です。

　こちらの下記URLからご覧ください。
　https://www.youtube.com/c/ROBOCON-Official

　また、当日の様子は後日テレビ放送も予定されています。

　放送予定日：２０２０年１１月２３日（月・祝）

　１３：０５～１３：５９　ＮＨＫ総合テレビ

2020年第45回土木情報学シンポジウムで、本校専攻科1年生が優秀講演賞を受賞しました

投稿日時：2020.10.21　ニュース

2020年9月24日（木）から25日（金）にオンラインで開催された第45回土木情報学シンポジウムにおいて、本校専攻科（産業技術システム工学専攻社会環境システム工学コース）1年の馬場那仰（ばばやすたか）さんが、「Autoencoderによるコンクリート打音試験の浮き判定に関する研究」について発表し、優秀講演賞を受賞しました。本賞は、学生（学部、修士の学生）を対象に30名ほど（ほとんどが修士の学生）の発表があり、審査員の厳格な審査に基づき、受賞されました。

馬場さんは、建設環境工学科5年次の卒業研究で実施した成果をとりまとめたものを発表し、受賞につながりました。

山下校長に受賞の報告をする馬場さん

高専ロボコン東北地区大会で、福島高専Cチームが、最優秀賞（例年の優勝相当）を受賞し、全国大会出場権を獲得しました

投稿日時：2020.10.21　ニュース

10月18日（日）に、東北地区6高専7キャンパスから17チームが参加して、第33回　アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2020東北地区大会が、オンラインで開催されました。今年の課題は従来とは異なり、より表現力が重視されています。また、1キャンパス当たり最大4チームまでが参加できます。以下が競技課題の概要です（高専ロボコン公式YouTubeライブのアーカイブより引用）。

【競技課題】『だれかをハッピーにするロボットを作ってキラリ輝くパフォーマンスを自慢しちゃおうコンテスト』 略称：はぴ☆ロボ自慢 今年はロボットの完成度やパフォーマンスだけでなく、テーマ設定やアイデア自体も評価基準に加えます。 競技時間内の時間の使い方も自由とし、ロボットのパフォーマンスに加えてテーマ設定の意味づけを表現するためにチームメンバーによるプレゼンを行ってもかまいません。 今年は地域・学校によって、ロボットを作る環境、披露する環境に大きな差があります。 だからこそ、自分が置かれた環境の中で表現できるアイデアとロボットパフォーマンスを通して、だれかをハッピーにする今年ならではの『アイデア対決』を見せてください。

本校からは、以下の３チームが参加しました。

Aチーム（ロボット技術研究会所属）

出場メンバー：青栁俊（機械システム工学科3年）
　　　　　　　澤田美紗妃（電気電子システム工学科3年）
　　　　　　　上遠野啓太（電気電子システム工学科１年）
指導教員：小出瑞康（機械システム工学科 准教授）
プロジェクト名：颯走（そうそう）
パフォーマンス：学生が操縦するロボットによる相馬野馬追神旗争奪戦の再現
結果：予選11位タイ,セメダイン株式会社 特別賞

Bチーム（ロボット技術研究会所属）

出場メンバー：冨樫優太（電気電子システム工学科3年）
　　　　　　　斎野朝日（電気電子システム工学科2年）
　　　　　　　仲井洸貴（機械システム工学科2年）
指導教員：野田幸矢（機械システム工学科 助教）
プロジェクト名：桃竹（とうちく）
パフォーマンス：「桃太郎」と「竹取物語」をアレンジした劇の、学生とロボットの協力による演技
結果：予選4位（決勝進出）, アイデア賞, ローム株式会社 特別賞

Cチーム（分子生物学愛好会所属）

出場メンバー：鈴木碧（電気電子システム工学科４年）
　　　　　　　鈴木菜緒（化学・バイオ工学科3年）
指導教員：天野仁司（化学・バイオ工学科 教授）
プロジェクト名：鈴音（すずね）
パフォーマンス：自動ロボット4台による無接触ハンドベル演奏＋自動疑似玉乗りロボットによる音感LED呈示（赤外線ワイヤレス給電）
結果：予選1位（決勝進出）, 最優秀賞（例年の優勝相当）, 全国大会出場権獲得

今年は、活動期間と活動時間が制限された中での大会でしたが、福島高専の各チームとも困難な環境の中で、できる限りの努力をし、成果を出しました。皆様から頂いたご支援、ご協力に心から感謝いたします。また、上記のように、Cチームは、11月29日（日）にオンラインで行われる全国大会に出場いたします。本校は、昨年の東北地区大会優勝に続く、最優秀賞（例年の優勝相当）での、全国大会出場権獲得です。全国大会出場は、これで8年連続となり、東北地区の全国大会連続出場記録を伸ばすことができま

した。全国大会には、ロボットの精度と、パフォーマンスのクオリティーを上げて臨みたいと考えております。

大会の模様は、高専ロボコン公式YouTubeライブのアーカイブで視聴できるほか、11月23日（月曜祝日）13:05～13:59 NHK総合テレビで、東北6県に放送されます。福島高専の、モノづくり教育活動の一端をご覧いただければ幸いです。

高専ロボコン公式YouTubeライブのアーカイブ
https://www.youtube.com/watch?v=BR3kR-qv8_k

福島高専Aチーム　予選ラウンド2：16：00頃～
福島高専Bチーム　予選ラウンド1：05：30頃～　本選ラウンド3：07：10頃～
福島高専Cチーム　予選ラウンド1：18：15頃～　本選ラウンド3：25：15頃～

Aチーム（ロボット技術研究会所属）
結果：予選11位タイ,セメダイン株式会社 特別賞

Bチーム（ロボット技術研究会所属）
結果：予選4位（決勝進出），アイデア賞, ローム株式会社 特別賞

Cチーム（分子生物学愛好会所属）
結果：予選1位（決勝進出），最優秀賞（例年の優勝相当），全国大会出場権獲得

校内体育大会、磐陽祭をインターネットを利用して実施しました

投稿日時：2020.11.19　ニュース

本校では、11月6日（金）に校内体育大会、7日（土）に磐陽祭を開催しました。

今年は新型コロナ感染防止の観点から、中止も検討しましたが、インターネットを活用することで、「新しい生活様式」に沿ったイベントの内容を決めて、開催することが出来ました。体育大会では、バレーボール、ソフトボール、バドミントン等、体を接触することが少ない競技やeスポーツの様な新しい企画がありました。
これらの競技風景は、ライブで配信され、競技者以外の学生は、各教室のプロジェクタからの映像で観戦しエールを送っていました。初の試みとなったｅスポーツでは、学生による実況中継を交え、攻撃の解説や技の難易度などの説明があり、見て楽しい企画となりました。

磐陽祭では、学科対抗PR動画、仮装・覆面筋肉コンテスト、学生有志によるダンスパフォーマンスなどを配信しました。学生は、自宅や寮からこれらの配信された動画を見たり、学科対抗PR動画を見て感想をチャットで話したり、動画の評価をネットから行う等して、イベントに参加しました。
これらの企画は、学生が中心となり立案し、効果的な映像配信や実況中継が出来るように試行錯誤を重ねて実施出来ました。

今後、新型コロナの影響がどのようになるかは、分かりませんが、今回新たな試みのもと計画したイベントを無事終了することが出来たことは、大きな成果と思います。

ｅスポーツ対戦中

ドッチボール競技風景

ソフトボール競技風景

バドミントン競技風景

モザイクアートの展示

ダンスパフォーマンス風景

仮装コンテスト風景

ｅスポーツ実況中継風景

第1回「SDGs Webinar 2020－"今"を視て創造する新しいSDGs－」を開催

投稿日時：2020.11.19　ニュース

本校では、「SDGs Webinar（ウェビナー：Web＋Seminar）2020－"今"を視て創造する新しいSDGs－」を開催しています。

このプログラムは、国立高専機構本部が主催、長岡・豊橋両技術科学大学が共催、本校が開催担当校としてインターネットを利用して、2020年11月から2021年1月にかけて、全5回開催されます。プログラムでは、SDGsをベースとして自分自身の居住地域をグローバルかつローカルな視点で見直し、問題提起とその解決策を考えることをテーマとしています。また、ESG（企業の長期的な成長のために必要な3つの観点である、環境：Environment、社会：Social、ガバナンス：Governanceのこと）について学びます。

参加者は、全国の国公立高専の専攻科1、2年生と本科4、5年生、長岡・豊橋両技科大学の大学院生、本校の学生運営委員の合計39名です。

講師は、アメリカ・シリコンバレーと日本の架け橋となりビジネス支援や人材育成等の事業を行っているB-Bridge International, Inc.の桝本博之President/CEO、長岡技科大学の山本麻希准教授、豊橋技科大学の髙嶋孝明教授の3名が行います。

第1回のウェビナーは、2020年11月7日（土）に実施しました。オープニングセレモニーでは、山下治校長と国立高専機構本部事務局の青木宏之国際参事から参加者に激励の言葉が述べられました。その後、桝本博之氏が講師となり、「日本の常識と世界の常識～グローバルな発想をもとに考えるために～」をテーマに講義が行われました。参加者は常識にとらわれずにアイデアを生み出すことの大切さを学びました。また、グループディスカッションが行われ、その結果を参加者全員で共有しました。

今後は隔週で開催され、最終回の第5回は、2021年1月9日（土）に開催し、ウェビナーの集大成として新たな視点で見つけた解決策を基に、持続可能なビジネスアイデアをグループごとに発表します。

オープニングセレモニーで挨拶する山下治校長

オンラインを使用した受講風景

令和2年度土木学会全国大会第75回年次学術講演会で、本校専攻科1年生が優秀論文賞を受賞しました

投稿日時：2020.11.26　ニュース

令和2年9月7日（月）から9月11日（金）に開催された令和2年度土木学会全国大会第75回年次学術講演会において、専攻科（産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース）1年の鈴木梨恵さんが、「熱の影響によるベントナイトのモンモリロナイト含有率と強度の関係」と題して、本科で行った卒業研究の成果をとりまとめ発表し、「年次学術講演会優秀論文賞」を受賞しました。

今年は、新型コロナ感染症対策として、インターネットを使用して行われた事から、例年の論文内容に加え、論文データの構成や発表スライドの見易さ、意見交換の対応などが、併せて審査されました。

鈴木さんから、「この賞は私個人の力ではなく、これまでご指導して育てて頂いた先生と、丁寧に教えてくださった先輩や研究室の皆様のお陰であると実感しております。今後とも、多くの人たちにお力添えを頂きながら、研究にまい進していきたいと思います。」とコメントがありました。

山下校長に受賞の報告をする鈴木さん

【お知らせ】高専ロボコン全国大会ライブ配信のご案内

投稿日時：2020.11.26　ニュース

11月29日(日)、「第33回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト２０２０全国大会」が開催され、当日の様子はライブ配信される予定です。

今年度は、新型コロナウイルスの状況を考慮し、初めてのオンライン開催となります。

本校からは、

プロジェクト名：鈴音（すずね）

鈴木碧さん（電気電子システム工学科４年）

鈴木菜緒さん（化学・バイオ工学科３年）

天野仁司先生（化学・バイオ工学科 教授）

が出場し「アイデア対決」へ挑みます。

大会の模様は、当日午前9時45分から下記の方法でライブ配信予定です。

①バーチャル国技館「Cluster」内でのライブ配信

②「YouTube」でのライブ配信

※ライブ配信の視聴方法・詳細は、ロボコン公式HP

http://www.official-robocon.com/　をご参照ください。

また、当日の様子は後日テレビ放送も予定されています。

放送予定日：２０２０年１２月２６日（土）

１５：０５～１５：５９　ＮＨＫ総合テレビ

青柳克弘副校長（企画・復興支援担当）が令和元年度国立高等専門学校教員顕彰で理事長賞を受賞しました

投稿日時：2020.12.08　ニュース

本校、副校長で化学・バイオ工学科の青柳克弘教授が、『「地域復興人材育成」及び「廃止措置（廃炉）人材育成」への貢献』により、令和元年度国立高等専門学校教員顕彰において国立高等専門学校機構理事長賞を受賞しました。

国立高等専門学校教員顕彰とは、学校の管理運営、地域社会への貢献及び学生教育を中心とする分野において顕著な功績を挙げている教員を顕彰するもので、理事長賞は、文部科学大臣賞に次ぐ業績を挙げている教員に贈られる賞で毎年若干名に贈られます。

青柳教授は、「地域復興人材育成」において、小学校や中学校などの依頼により教員が出向いて講義を行う出前授業や、震災復興に携わる土木技術者育成のための特別教育プログラムを実施する等、地域の人々を対象に、原子力安全分野・再生可能エネルギー分野・減災分野の３つの分野から復興人材育成に取り組みました。

「廃止措置（廃炉）人材育成」においては、廃止措置人材育成高専等連携協議会を中心として、全国の高専生を対象に廃炉創造学習プログラムを実施し、廃炉作業を進めていく上で必要となる人材の育成に事業責任者として寄与しました。また、ロボット製作を通じて学生に廃炉についての関心を持たせると同時に課題解決能力のみならず、課題発見能力を養うことを目的にこれまでに、４回の「廃炉創造ロボコン」を開催しました。

この功績をたたえ、令和２年１１月１８日、学内小会議室において教員顕彰表彰式を執り行い、理事長賞の賞状と記念品が山下校長から贈呈されました。

青柳教授と山下校長（右）、内田学科長（左）

令和２年度留学生交流ボーリング大会を開催しました

投稿日時：2020.12.08　ニュース

１１月１３日（金）に、市内のボーリング場において、「令和２年度留学生交流ボーリング大会」を開催しました。今回のボーリング大会は、学内のグローバル化推進センターが主催となって長期留学生と留学生に関わる学生及び教職員間の親交を深めることを目的にすると同時に、マレーシア政府派遣留学生が１０月下旬に渡日し、１１月６日（金）から本校に登校する事が出来たことから全員が揃ったため、歓迎会の一環として開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、母国へ帰国する機会が無くなり、また、学生同士の交流も激減している状況を考慮し、事業内容を学内で慎重に検討したうえでの開催となりました。

当日は、長期留学生、担任、学生チューター及びグローバル化推進センター員の合計２０名が参加しました。ボーリング会場の新型コロナウイルス感染症対策に則り、チーム構成を１チーム３名とし、プレー中のマスク着用、手指の消毒を行いつつ、プレーを楽しみました。

プレー後は、石原グローバル化推進センター長から優勝から３位及びブービー賞の発表と賞品の授与があり、大会は大いに盛り上がりました。

ボーリング大会風景

大会後の集合写真

高専ロボットコンテスト2020全国大会で、福島高専Cチームがデザイン賞を受賞しました

投稿日時：2020.12.08　ニュース

11月29日（日）に、全国高専の地方予選を勝ち抜いた28チームが参加して、第33回　アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2020全国大会が、インターネットを利用して開催されました。今年の課題は従来とは異なり、より表現力が重視されています。東北地区大会参照

本校からは、東北大会で最優秀賞を受賞した福島高専Cチームが参加しました。
大会当日は、予選ラウンド、決勝ラウンドが行われ、本校チームは、予選3位で決勝ラウンドに進出しました。

決勝ラウンドでは、山下校長が応援団長として、「（福島出身の作曲家、小関先生にちなんで、）福島高専から音で全国の皆さんにエールを送ります。鈴木さん（チームリーダー）「鈴音」（ロボット名）の美しい音で、全国の皆さんにハッピーを届けてください。」と挨拶がありました。

決勝では、演技時間が予選から1分多くなり、3分間で行われました。

演技では、惜しくもわずかにロボットに不具合がありましたが、学生たちが考えたアイデアは、すべて披露することができ、デザイン賞を受賞することができました。

大会の模様は、高専ロボコン公式YouTubeライブのアーカイブで視聴できるほか、12月26日（土）15:05～15:59 NHK総合テレビで、全国放送されます。福島高専のモノづくり教育活動の一端をご覧いただければ幸いです。

出場メンバー：鈴木碧（電気電子システム工学科４年）
鈴木菜緒（化学・バイオ工学科3年）

指導教員：天野仁司（化学・バイオ工学科 教授）

プロジェクト名：鈴音（すずね）

パフォーマンス：自動ロボット4台による無接触ハンドベル演奏＋自動疑似玉乗りロボットによる音感LED呈示（赤外線ワイヤレス給電）

結果：予選3位（決勝進出）, 決勝（総合）5位, デザイン賞受賞

デザイン賞を受賞した鈴木碧さん（右）と鈴木菜緒さん（左）

一致団結して応援する福島高専応援団

デザイン賞を受賞したロボット全景

年末年始の一斉休業のお知らせ

投稿日時：2020.12.10　ニュース

年末年始の一斉休業のお知らせ

本校では、下記の日程で一斉休業を実施いたします。

記

令和２年１２月２６日（土）～令和３年１月３日（日）

◎緊急連絡先（守衛所）TEL：0246-46-0743

第５回廃炉創造ロボコンのオンライン開催について

投稿日時：2020.12.10　ニュース

例年１２月に開催しております「廃炉創造ロボコン」について、今年度はオンライン開催となります。

過去４回は日本原子力研究開発機構楢葉遠隔技術開発センターを会場として開催してきましたが、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大が続いていることもあり、現地での開催は見送り、出場チームが撮影した動画により審査する形で開催されます。１月末に各チームの動画公開、受賞チームの発表が行われます。
福島高専からは１チームが出場します。

大会詳細については、以下のホームページをご覧ください。
（第５回廃炉創造ロボコンホームページ）

https://fdecomi.fukushima-nct.ac.jp/index.html

令和２年度卒業証書授与式・修了証書授与式について

投稿日時：2020.12.16　ニュース

福島高専では、令和２年度卒業証書授与式・修了証書授与式を次とおり実施予定です。なお、新型コロナウイルスの状況を踏まえ、実施方法等の詳細は現在検討中であるため、追ってお知らせいたします。

○令和２年度卒業証書授与式・修了証書授与式（予定）

開催日：令和３年３月１８日（木）午後
会　場：いわき芸術文化交流館アリオス
参加者：修了生・卒業生、保護者（各世帯2名まで）、教職員

※状況の急変等により、直前に開催方法・会場の変更もしくは中止の判断をする場合があります。

本校学生が第6回関東磐越地区化学技術フォーラムで優秀発表賞を受賞しました

投稿日時：2020.12.23　ニュース

令和2年11月21日（土）に、本校と小山高専、福島化学工学懇話会の共催、関東工学教育協会、東北工学教育協会の協賛のもとで第6回関東磐越地区化学技術フォーラムが開催されました。今回、同フォーラムは感染症対策としてオンラインで開催されました。

当日は60名を超える聴講者があり、高専および大学から30件の口頭発表が行われ盛会となりました。本校からも数件の発表が行われました。その結果、化学・バイオ工学科2年の箱﨑惇太朗さんが自身の取り組んでいる研究の成果を発表し、大学院生や高専専攻科生が多く発表する中で見事に優秀発表賞を受賞しました。

研究題目：高線量ガンマ線照射に対する*Colpoda cucullus* 休眠シストの耐性

受賞者：〇箱﨑惇太朗，齊藤優汰，小林聖和，齊藤瞭汰，小泉亮太，酒井達弥, 十亀陽一郎（いずれも福島高専学生及び教員）

なお，今回発表された研究内容は，学術論文としてJournal of Protozoology Research誌に掲載されています。

タイトル：Comparison of the morphology and viability of gamma irradiated vegetative cells, wet cysts, and dry cysts of the soil ciliate *Colpoda cucullus*

著者：Ryota Saito, Tatsuya Sakai, Ryota Koizumi, Taiga Shimizu, Taiki Ono, Shuntaro Hakozaki, Sena Kobayashi, Yuta Saito, Yoichiro Sogame （いずれも福島高専学生及び教員）雑誌：Journal of Protozoology Research, 30, 20--30 (2020).

箱﨑惇太朗さん（中央）

本校OB小松道男氏（小松技術士事務所長）が気候変動アクション環境大臣表彰において「開発・製品化部門　気候変動アクション大賞」を受賞しました

投稿日時：2020.12.23　ニュース

本校OBで専攻科非常勤講師の小松道男先生が、環境省が行う気候変動アクション環境大臣表彰において部門最高位「開発・製品化部門　気候変動アクション大賞」を受賞し、このほど山下校長への受賞報告のため来校されました。

この賞は、地球温暖化対策推進の一環として、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体をたたえるためもので、先生は、「植物由来・生分解樹脂「ポリ乳酸」の先進的射出成形技術群の開発」で今回の受賞となりました。詳細については、環境省のHPに掲載がありますので、ご覧下さい。

（環境省HP）
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/min_action_award/files/r02_pamphlet.pdf

受賞の報告に訪れた小松氏（左）と山下校長（右）
（テーブル上のグラス類は、小松氏が開発した技術により製造された品々）

いわき市男女共同参画の日事業「川柳の部」で最優秀賞を受賞しました

投稿日時：2020.12.25　ニュース

「令和２年度いわき市男女共同参画の日事業」の一つである川柳募集に対して，本校の学生が多数応募し、その中の4名が以下の各賞を受賞しました。併せて、多くの受賞者を出した学校に与えられる学校賞を受賞しました。

今回の川柳は、「家庭や職場、地域などで普段感じていることや、性別による固定的な役割意識にとらわれないで活動している姿を川柳で表現する」こととしています。

今回の受賞を受けて、齊藤男女共同参画・キャリア支援室長と受賞した4名の学生が山下校長に報告を行い、校長から「次世代技術者を目指す高専生が、広く、男女共同参画という社会が求めるテーマに注目し，自身の思いや考えを川柳という形で表現、応募の結果４名が受賞しはじめて学校賞も受賞できたことを誇りに思う。今後も男女共同参画等、社会が求めるテーマへの取り組みを高専からも広げていきたい。」とありました。

受賞者

〇高校生の部　最優秀賞　大串玲央　都市システム工学科３年

作　　品　「作業着を　着こなし映える　土木女子」

優 秀 賞　堀内みづほ　都市システム工学科３年

作　　品　「夕暮れに　料理する父　帰る母」

佳　　作　菊田勇気　都市システム工学科３年

作　　品　「理想はね　忖度なしの　家事分担」

〇大学生・一般の部　審査員特別賞　佐藤凌真　建設環境工学科５年

作　　品　「性別で　僕（私）の何が　わかるのだ」

〇学校賞　福島工業高等専門学校

受賞の報告を山下校長に報告する受賞者（左から）菊田勇気さん、大串玲央さん、佐藤凌真さん、堀内みづほさんと齊藤室長

令和３年度　本科入学者選抜（推薦）の願書受付状況

投稿日時：2021.01.14　ニュース

令和3年度　本科入学者選抜（推薦）の願書受付状況を

別紙のように公表いたします。

令和3年度入学者選抜（推薦）の願書受付状況.pdf

学生の新型コロナウイルス感染について（遠隔授業実施中のため、学校活動への影響はありません）

投稿日時：2021.01.15　ニュース

令和３年１月１５日

関係各位

福島工業高等専門学校長
山　下　　　治

学生の新型コロナウイルス感染について

１月１４日(木)、本校学生１名の新型コロナウイルス感染が確認されましたのでお知らせします。本校では保健所と協議の上、次のとおり対応して参りますので、御理解と御協力をお願いいたします。

１．　本校の対応
　本校では１月８日(金)から１月１５日(金)まで遠隔授業を実施しており、学校関係者に接触者等がおらず濃厚接触者や校内への影響がないことから、１月１６日（土）の推薦による入学者選抜、１月１８日（月）からの対面授業を予定どおり実施します。今後も学生及び教職員の健康管理と感染防止対策を徹底し、安定した学校運営を継続できるよう努めて参ります。

２．　人権尊重・個人情報保護に関するお願い
　感染者やそのご家族の人権尊重・個人情報保護にご配慮をお願いします。

◎文部科学大臣メッセージ
新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて.pdf

令和２年度東北工学教育協会高専部会主催「産学交流の日」の開催について（ご案内）

投稿日時：2021.01.15　ニュース

この度、東北工学教育協会高専部会主催による「産学交流の日」を、令和２年度は本校が主幹校となり開催することとなりました。

つきましては、この「産学交流の日」を産学官連携の機会としてご活用頂きたくご案内いたしますので、ぜひ多数のご参加をお待ちしております。

なお、参加を希望される場合は、参加申込書（以下ダウンロード）に必要事項ご記入の上、令和３年２月５日（金）まで下記担当へご連絡下さいますようよろしくお願い申し上げます。

（目的）

東北地区における高専教育の充実・発展を図り、併せて地区高専教職員相互並びに産業界との交流促進を目的とする。

（主催）

東北工学教育協会高専部会（主幹校：福島工業高等専門学校）

（開催日時）

令和３年２月１２日（金）１３：００－１５：１０

（会場）

WEB会議（Microsoft Teams使用）

・実施要項

・日程表

・参加申込書（Word）

【本件担当】

総務課　地域連携係

E-mail: liaison_office@fukushima-nct.ac.jp

令和2年度土木学会構造工学委員会「第1回ＡＩ・データサイエンスシンポジウム」で本校専攻科2年生が「AI・データサイエンス奨励賞」を受賞しました

投稿日時：2021.01.20　ニュース

令和2年11月18日（水）から11月20日（金）にオンラインで開催された令和2年度土木学会構造工学委員会「第1回ＡＩ・データサイエンスシンポジウム」において、専攻科（産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース）2年の志賀純貴さんが、「AIによる変状抽出機能の舗装路面簡易評価システムへの適用」を発表し、「 AI・データサイエンス奨励賞 」を受賞しました。

今年の審査は、新型コロナウイルス感染症対策のためにインターネットを使用して行われました。

校長に報告する志賀さん（左）

ＡＩ・データサイエンス賞

土木学会　構造工学委員会　構造工学でのＡＩ活用に関する研究小委員会では，ＡＩ・データサイエンスシンポジウムにおいて，革新性・将来性・社会性に優れた論文に論文賞，革新性・将来性・社会性のいずれかに優れ今後が期待される論文に奨励賞，聴講者より高い評価を得た優れた論文に特別賞を授与しています。

原子力規制人材育成事業フォーラムを開催しました

投稿日時：2021.01.21　ニュース

平成２８年度から原子力規制庁の補助金により進めている、原子力規制人材育成に係る今年度のフォーラムを１月７日（木）に本校図書館棟プレゼンテーションルームを会場にオンラインを併用した"ハイブリッド方式"にて開催しました。

このフォーラムは、これまでの成果を発表すると共に事業に関係する方々と情報を共有し、今後の事業の展開に資することを目的に毎年開催しています。今年度が最終年度であるため、例年以上の規模での報告会となるところでしたが、新型コロナ感染防止対策を考慮し、会場には、発表者と関係者のみとし、他の参加者はインターネットから参加しました。また、会場に来ることが出来ない発表者についても、インターネットを使用して行われました。

フォーラムでは、初めに山下校長から開催の挨拶があり、続いて基調講演として、前原子力規制委員会委員長で、現在飯館村復興アドバイザーの田中俊一氏が「原発事故からの復興と若者への期待」と題して講演を行いました。田中先生から、若者へのメッセージとして「周りのうわさ等に惑わされることなく、自分自身で判断し、自分自身で語ることが出来る見識を身に着けてほしい。」とありました。

その後、本事業責任者の原田正光副校長が事業概要報告を行い、事例発表として学生からこの事業で新たに開設した授業「環境安全学・演習」の受講報告、JAEA幌延深地層研究センターの施設見学報告及び本事業プログラムの履修報告が行われました。また、卒業生による本プログラムの履修報告と社会人となって、履修したプログラムがどのように生かされているか。今、在校生に伝えたい事等の発表がありました。質疑では、プログラムの感想や海外研修時の事前準備や気持ちの持ち方など、多岐にわたる活発な意見交換が行われました。

事例発表者

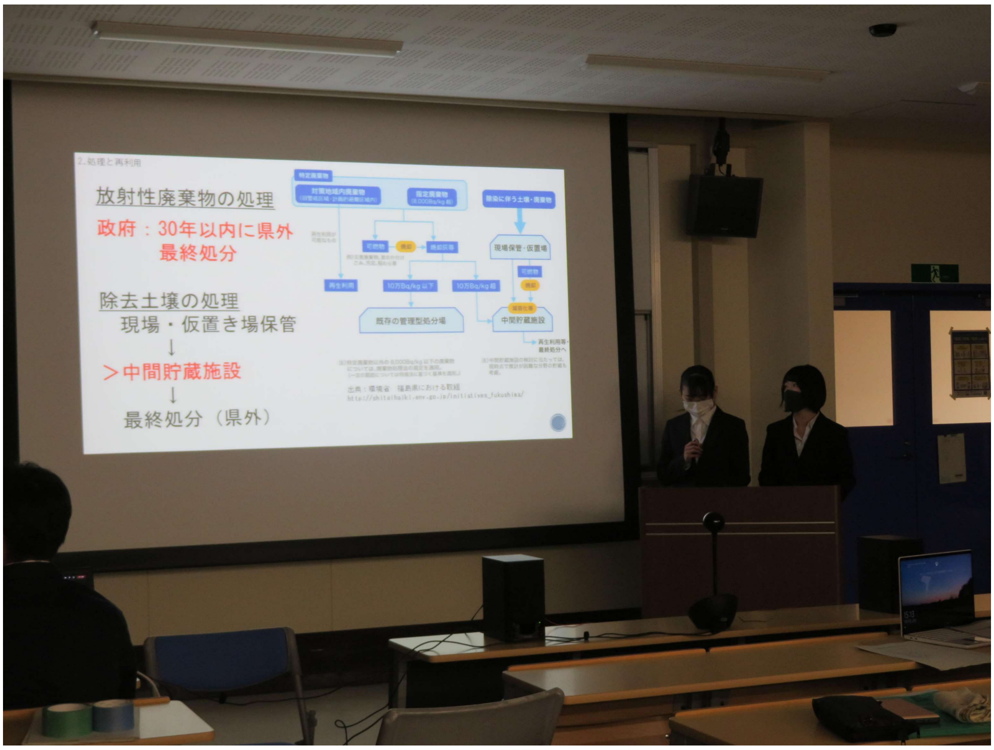
１）授業「環境安全学・演習」
　　化学４年　野場なお、都市４年　岡部さくら

２）施設見学報告「ＪＡＥＡ幌延深地層研究センター」
　　建設５年　薗邉孝裕

３）本プログラム履修生の発表
　　機械５年　中田陸斗
　　専攻科１年　馬目由希

４）本プログラム履修・卒業生の発表
　　JAEA原子力科学研究所　武藤尚樹氏

基調講演を行う田中先生



事例発表風景

令和３年度入学者選抜（学力）の出願受付状況について（1月25日出願分）

投稿日時：2021.01.25　ニュース

　福島高専における「令和3年度入学者選抜（学力）」の出願が，1月25日（月）から29日（金）の期間で始まりました。これを受け本日1月25日（月）願書受付状況を公開します。

〇機械システム工学科　　　　　　：11名

〇電気電子システム工学科　　　　：13名

〇化学・バイオ工学科　　　　　　： 3名

〇都市システム工学科　　　　　　：11名

〇ビジネスコミュニケーション学科： 4名

　合　　計：42名

奈良名誉教授が令和２年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章しました

投稿日時：2021.01.26　ニュース

令和２年秋の叙勲において、奈良宏一名誉教授（第七代校長）が、教育研究功労により、瑞宝中綬章を受章しました。

奈良先生は、平成19年4月より7年間、本校の校長を歴任し、管理運営の最高責任者として、現在の福島高専の礎となる教育研究活動等の改善を行いました。
特に地方自治体、地元企業、近隣大学と多数の連携協定を締結し、その中でも平成20年には京都大学エネルギー理工学研究所、平成24年には日本原子力研究開発機構との連携協定によって、学生を両機関にインターシップに派遣することが出来るようになり、その後の各種の原子力人材育成事業に繋がりました。また、多くの海外大学等との連携協定を締結し、本校のグローバル化の基礎を築きました。

在任期間の平成23年3月に「東日本大震災」が発生した際には、直ちに危機管理室を設置し、情報の収集を行うとともに、応急対策を始め、災害対策本部責任者として復旧・復興にあたりました。いわき市では、地震・津波災害に加え、原子力発電所事故による放射線被害に対しての情報錯そうによる恐怖の中、帰宅できない通学生及び寮生の対応、近隣住民や原子力発電所事故による被害地区の広野町住民の受入など、安全確保を行いながら対応しました。また、校内での放射線の定点観測、教職員に放射線測定器を貸与し、いわき地区の放射線のモニタリングを行い、データとして安全性の「見える化」を行いました。これらの事は、ホームページに掲載することで、保護者を始め、周辺住民にも高く評価されました。

この様に、福島高専を始め、地域からも信頼されるリーダーとしての活動が今回の受賞に繋がりました。

上段左より　宮澤旧学生主事、青柳旧教務主事、鳥居旧寮務主事
下段左より　笠井学生主事、山下校長、奈良名誉教授、大槻教務主事、松江寮務主事

令和３年度入学者選抜（学力）の出願受付状況について（1月26日出願分）

投稿日時：2021.01.26　ニュース

福島高専における「令和3年度入学者選抜（学力）」の1月26日（火）分願書受付状況を公開します。

○機械システム工学科　　　　　　：4名

○電気電子システム工学科　　　　：7名

○化学・バイオ工学科　　　　　　：2名

○都市システム工学科　　　　　　：3名

○ビジネスコミュニケーション学科：3名

　合　　計：19名

※願書出願期間中の出願者数：61名

SDGs Webinar 2020－"今"を視て創造する新しいSDGs－

投稿日時：2021.01.27　ニュース

SDGs Webinar 2020 について

本校では、2021年1月9日に SDGs Webinar 2020 の最終発表会が開催されました。このプログラムは、国立高等専門学校機構が主催、長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学が共催、福島高専が開催担当校となり、全てオンラインで実施しました。この発表会では、2020年11月から実施した全5回の講義の集大成として、1チーム5～6名からなる7チームがSDGsの視点を組み込んだビジネスモデルを発表しました。発表の中には、参加者や講師が興味を持つビジネスモデルのアイデアが多数あり、その中から2つのチームがBEST BUSINESS MODELと 2nd BEST BUSINESS MODELに選出されました。

BEST BUSINESS MODELには、一人暮らしをしている大学生が両親から日々の食事を心配された体験を基に、「両親を安心させ、栄養バランスの取れた食生活を送りたい。」という着眼点で考案された「スマートコックDANRAN（だんらん）」が選ばれました。このビジネスモデルは、インターネットを利用して、親元から送られたレシピのデータをもとに離れた場所に住む子供が家庭の味を自動で調理することができる家電を提案しました。

2nd BEST BUSINESS MODELには、福島県産農産物の風評被害払拭のために福島県産の果物や植物から作る環境に配慮した化粧品の開発・販売を提案した「ヴィーガンコスメで福島県産農作物の風評被害に歯止めをかけられるか？」が選ばれました。このビジネスモデルでは、環境への負荷を減らすとともに動物実験を禁止するなど、SDGｓを念頭においた企業活動を提案し、評価されました。

今回受講した学生は、全5回のWebinarをとおしてSDGｓ・ＥＳＧの考え方や目標の立て方、ウィズコロナ・アフターコロナ社会における変化に順応できる能力・考え方を学習することが出来ました。

※企業が持続的に成長できるか否かを判断する指標として用いられる、Environment（環境）Social（社会）Governance（ガバナンス）の3要素の総称

参加者の記念撮影

専攻科学生2名が第11回福島地区CEセミナーで口頭発表優秀賞を受賞しました

投稿日時：2021.01.29　ニュース

令和2年12月19日（土）、郡山市民交流プラザにて第10回福島地区CEセミナー（主催：福島化学工学懇話会、協賛：化学工学会東北支部）が開催されました。同セミナーは今回、新型コロナ感染対策として発表者を県内者に限定して行われ、本校の学生も3件の口頭発表を行いました。

大学生や大学院生が多く発表する中で、本校専攻科産業技術システム工学専攻化学・バイオ工学コース1年の福原至音さんの発表「特定濃度でのみ発色する銅（Ⅱ）イオン比色検出系の構築」、同1年の山内喬矢さんの発表「環境水中での尿素代謝に関わる諸因子解明－微生物種の視点から－」が高く評価され、両名が口頭発表優秀賞を受賞しました。

研究題目：特定濃度でのみ発色する銅（Ⅱ）イオン比色検出系の構築
発表者：○福原 至音（福島高専），加島 敬太（小山高専），間中 淳（富山高専），羽切 正英（福島高専）

研究題目：環境水中での尿素代謝に関わる諸因子解明 － 微生物種の視点から－
発表者：○山内喬矢，車田研一（福島高専）

※○印が登壇者・受賞者

受賞者の福原至音さん（左）と山内喬也さん（右）

令和3年度入学志願者状況について

投稿日時：2021.02.01　ニュース

令和3年度入学者志願者状況を公表いたします。

令和3年度入学志願者状況.pdf

第５回廃炉創造ロボコンで文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞しました

投稿日時：2021.02.02　ニュース

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島高専校長）が主催、文部科学省及び国立高等専門学校機構等が後援し、「第５回廃炉創造ロボコン」が、令和３年１月２４日（日）に全国の国公私立高専１３校１４チームが参加のもと、オンラインで開催されました。

例年、１２月中旬に、福島県双葉郡楢葉町にある日本原子力研究開発機構楢葉遠隔技術開発センターを会場として開催しておりましたが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、開催日時を変更したうえで、オンラインで実施しました。

オンライン開催にあたっては、※1競技課題に沿って各チームが作成したロボットの性能を紹介するプレゼンと各高専で作成した簡易なテストフィールドの競技風景を撮影した動画をもとに審査が行われました。昨年より、ロボットの基本性能だけでなく、廃炉の現場を想定した工夫が随所で見られ、実際の燃料デブリ取出し作業への適用の可能性が高いと評価されるロボットもありました。

閉会式では各賞の発表がなされ、文部科学大臣賞（最優秀賞）は、福島高専の※2「メヒカリ」が、受賞しました。本校のロボットは、自分の位置を把握する ※3 GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）を開発しスムーズな動きを実現した点、模擬デブリの重量や形状によって回収方法を変える工夫等が高く評価されました。

講評では、萩生田光一文部科学大臣が、「震災後１０年の節目の年に、地元福島の高専が初めて最優秀賞を受賞したことは大変意義深い。」と祝福しました。

今回の受賞を受けて、チームリーダーの機械システム工学科4年 鳥羽広葉さんは、「昨年の雪辱を晴らすことが出来てうれしい。チームメンバーと共に今日まで頑張れたことは今後のモノづくりにも生かされると思う。今日まで応援していただいた先生方、友人にはとても感謝しています。」と話しました。

各受賞校は以下のとおり。

◎文部科学大臣賞（最優秀賞）：福島高専
◎福島県知事賞（優秀賞）：鶴岡高専
◎日本原子力研究開発機構理事長賞（技術賞）：大阪府大高専
◎国立高等専門学校機構理事長賞（アイデア賞）：小山高専
◎福島イノベーション・コースト構想推進機構理事長賞（イノベーション賞）：熊本高専
◎特別賞（(株)アトックス賞）：一関高専
◎特別賞（日立GEニュークリア・エナジー(株)賞）：神戸市立高専
◎特別賞（技術者育成いわき経済活性化グループ賞）：富山高専

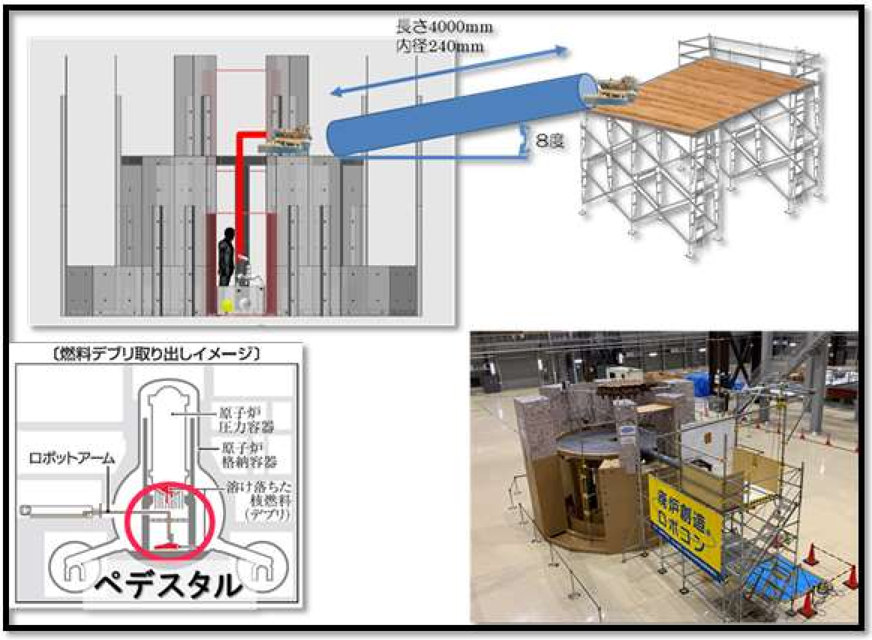
なお、大会の様子はYouTubeで公開されており、全１４チームの競技動画が視聴できます。

※1　競技課題：福島第一原子力発電所のペデスタル下部に存在する燃料デブリの取出しを想定し、スタート地点から塩ビパイプを通ってペデスタル内部に入り、そこから３．２m下にあるデブリを模した物体を回収し、ペデスタルの外に運び出すルール。

※2　ネーミングの由来：塩ビパイプ内を暗い深海に見立てて、そのパイプを通過する（泳ぐ）と考えた。そこでいわきの「市の魚」である深海魚のメヒカリからネーミングしました。実際に、メヒカリの「目が光る」ことから、ロボットにもLEDライトをつけ、操作の援助を行う仕様となっている。

※3　GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）：遠隔操作によって直視することができないロボットの角度やカメラアームの状態を一目で映像的に確認ができるようにしたシステム。また、レーザー距離センサからの情報をもとにフィールドの地図を作成するシステム。

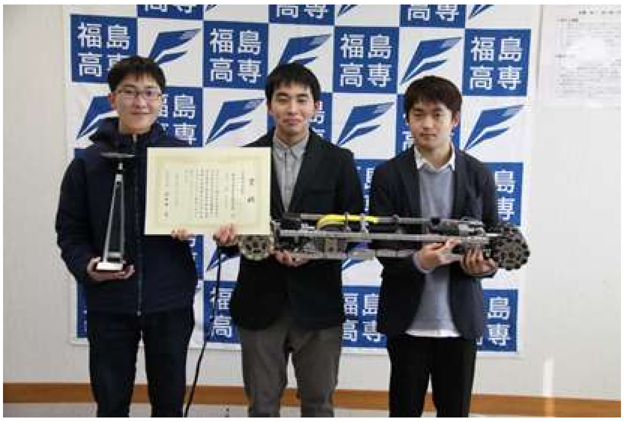
現地開催時の競技フィールド



廃炉ロボコンYouTube チャンネル

閉会式で挨拶する萩生田文部科学大臣

最優秀賞を受賞した福島高専「メヒカリ」の競技の様子



右から鳥羽広葉さん、武田匠さん、冨樫優太さん

令和3年度本科入学者選抜（推薦）合格内定者について

投稿日時：2021.02.04　ニュース

令和3年度本科入学者選抜（推薦）合格内定者を発表いたします。

令和3年度本科入学者選抜(推薦）合格内定者.pdf

2月13日（土）23時08分の福島県沖の地震による被害について（速報）

投稿日時：2021.02.15　ニュース

2月13日（土）23時08分に福島県沖で発生した地震の影響について、

同日23時15分に対策本部を設置し、随時情報収集を行っています。

本日（15日）17時の時点において大きな被害は確認されておりませんが、

引き続き、学生・教職員の安否確認、施設及び実験設備等の点検等を行っております。

関係の皆様には引き続き余震等に注意するなど安全確保に留意願います。

令和３年度入学者選抜検査合格者

投稿日時：2021.02.26　ニュース

令和３年度入学者選抜の合格者を、次のとおり発表いたします。

なお、合格者本人および出身中学校長には、合格者名等を通知した文書を

速達にて本日午前、いわき郵便局より発送いたしました。

令和3年度福島工業高等専門学校入学者選抜検査合格者一覧.pdf

ディジタル技術検定試験で優秀賞及び団体優秀賞を受賞しました

投稿日時：2021.03.01　ニュース

公益財団法人国際文化カレッジ主催のディジタル技術検定試験（文部科学省後援検定）において、今年度の成績優秀者に贈られる優秀賞を、本校、電気電子システム工学科3年の稲川竜也さん、稲川恭也さん、大沼源さん、田巻斗睦さんの4名が受賞しました。
また、多くの受検生が、優秀な成績を収めたことで、本校が「団体優秀賞」を受賞しました。

ディジタル技術検定は、情報処理・制御に関する技能や知識をディジタル技術という観点から評価する検定試験です。
文部科学省後援ということもあり、合格者は多くの企業で高く評価されています。

通常試験は、6月・11月の年2回実施されますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、11月の検定のみとなり、感染症対策をしっかりと行った上での実施となりました。

本校電気電子システム工学科では、一部の資格・検定試験に関するサポートを行い、合格者の増加を図っています。来年度も引き続き、サポートを行って行くこととしています。

【受賞一覧】

○優秀賞（３級）
稲川竜也（電気電子システム工学科3年）
稲川恭也（電気電子システム工学科3年）
大沼源（電気電子システム工学科3年）
田巻斗睦（電気電子システム工学科3年）

○団体優秀賞
福島高専

山下校長（中央）に受賞の報告をする学生と学級担任の橋本教員（左）

第6回ふくしま産業賞で学生銀賞を専攻科生が受賞しました

投稿日時：2021.03.01　ニュース

令和２年度第6回ふくしま産業賞において、本校専攻科2年小林千莉さんが学生部門で銀賞を受賞しました。

ふくしま産業賞は、県内の優れたものづくりや先進的な取組を展開する企業・団体・個人を顕彰する賞であり、福島民報社が主催、福島県、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会等が共催として毎年、実施しているものです。

今回受賞した専攻科社会環境システム工学コースの小林さんは、「除去土壌の再生利用に関する理解醸成アプローチ」をテーマに原子力発電所事故で出た除去土壌の再生利用をするにあたって理解を広めるための方法について有志ら約30名で、「知る」「見る」「伝える」に別けて活動を行いました。「知る」の活動では、原子力関連機関や大手ゼネコン、自治体などを訪ね講習会やセミナーを通して、除染作業の方法、除去土壌の現状、最終処分までの流れ等を学び、「見る」の活動では、最終処分方法の実験施設や双葉町の中間貯蔵施設、再生実証事業施設を見て、「知る」で得た知識の幅を広げました。これらを踏まえ「伝える」活動では、中間貯蔵施設地域周辺の住民との交流も含め、学生が「知る」「見る」で得た知識を伝えることが出来ました。「伝える」においては、住民との交流が有効で、交流することで信頼が生まれ、信頼を得た人から発せられる言葉は信用に繋がることが今回のテーマから認識出来たと考えます。

山下校長に報告する小林さん（右）

「産学交流の日」を開催しました

投稿日時：2021.03.01　ニュース

令和３年２月１２日（金）に、令和２年度東北工学教育協会高専部会主催「産学交流の日」を本校が主幹校となり開催しました。

「産学交流の日」は、東北地区における高専教育の充実・発展を図り、併せて東北地区高専教職員相互及び産業界との交流促進を目的として、年に一度、東北地区の高専が持ち回りで開催しています。例年、対面形式で開催していますが、コロナ禍の影響もあり、今年度はオンライン（Microsoft　Teams）での開催となりました。

初めに、本校の山下治校長、主催者の東北工学教育協会の長坂徹也会長から開会の挨拶を頂きました。
続いて、特別講演では東京大学アイソトープ総合センターの和田洋一郎教授から「持続可能な産業振興に寄与する粒子線加速器の医療応用」について、一般講演では東洋システム株式会社の庄司秀樹代表取締役から「～子供たちの未来のために～新エネルギー社会における高等教育構想」についての講話を頂きました。
講演後は、「工学と持続可能な発展」をテーマにパネルディスカッションが行われ、和田洋一郎教授、庄司秀樹代表取締役及び山下治校長をパネリストとして、持続可能な発展に向けた連携や今後の展開についての議論が行われました。

最後に山下治校長が、「産学の連携を強化し、共に発展していきたい。」と閉会の言葉を述べ、閉会となりました。

今回は、東北地区高専教職員や本校協力会会員企業等から約５０名の参加があり、高専への期待の声や提案をいただき、今後の産学連携に向け大変有意義な場となりました。

（左上：長坂会長、右上：和田教授、左下：山下校長、右下：庄司代表取締役）

（お知らせ）修了証書授与式・卒業証書授与式の会場等の変更について

投稿日時：2021.03.02　ニュース

令和３年３月2日

専攻科２年生、本科５年生
及び保護者　各位

校　　長

令和２年度修了証書授与式・卒業証書授与式の
会場等の変更について

標記の件につきまして、いわきアリオス大ホールを会場に準備を進めていたところですが、２月２７日付けでアリオス側から、２月１３日の震度５強地震の影響により、３月中は大ホールが使用不可となった旨の連絡がありました。

つきましては、３月１８日（木）の標記授与式については、利用が再開されているアリオス中劇場に変更して開催することとしましたのでお知らせします。また、会場の変更に伴い、収容人数が限られてくることから、参加者は、修了生・卒業生及び教職員のみとします。晴れの日を心待ちにされていた保護者各位のご出席がかなわないこととなり残念ではありますが、事情を鑑みご理解くださいますようお願いします。

なお、今後の新型コロナウイルスの状況によっては、開催方法の変更もしくは中止となる可能性がありますのでお含みおき願います。

（担当）総務課総務企画係　0246-46-0705

令和２年度　第１６回専攻科修了証書授与式・第５５回卒業証書授与式を挙行しました

投稿日時：2021.03.22　ニュース

３月１８日（木）、いわき芸術文化交流館アリオス中劇場において、令和２年度の専攻科修了証書授与式・卒業証書授与式を挙行しました。

この日、修了・卒業を迎えたのは、専攻科修了生３２名、卒業生１９１名です。式では、全員が呼名され、専攻科の各コース、各学科の代表学生に山下校長から修了・卒業証書が授与されました。山下校長は、告辞の中で、これから社会を生きていく中で心がけてほしいこととして、「正しい目標（夢）を持つ」、問題解決にあたり「正しい手順を踏む」、「レジリエント（復元力、粘り強さ）であること」の３点をあげ、人々の幸福実現に向け、世界的な視野を持って地域で活躍してほしいと激励し、ルーツである故郷、福島を忘れないで、いつか地元の復興・発展に貢献していくという気持ちも持ち続け、自らを信じ、レジリエントに自らの「夢」を実現してほしいと思います。と言葉を贈りました。

引き続き、卒業生代表の松本安基良さん（機械工学科）が挨拶を述べた後、卒業生代表者有志による卒業記念VTRが上映され、高専生活の思い出を心に刻みました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により修了証書授与式・卒業証書授与式が中止となり、２年ぶりの開催となりました。２月１３日に見舞われた福島県沖地震の影響もあり中劇場に会場を移しての開催となりましたが、新型コロナウイルス対策を講じながら厳粛な式を執り行うことができました。

修了生、卒業生の皆さんのこれからの活躍を期待しています。

卒業証書授与の様子

山下校長からの告辞

卒業生代表挨拶

令和2年度高専機構理事長特別表彰並びに日本高専学会研究奨励賞最優秀賞を受賞しました

投稿日時：2021.03.26　ニュース

本校、専攻科産業技術システム工学専攻（化学・バイオ工学コース）齊藤瞭汰（さいとうりょうた）さんが、専攻科の特別研究において特に優れた研究活動を行い、顕著な研究業績をあげました。これらの研究業績が評価され、令和2年度高専機構理事長特別表彰並びに日本高専学会研究奨励賞最優秀賞を受賞しました。また、本校では、この賞を受賞したことにより、福島高専特別表彰を授与することとなりました。

高専機構理事長特別表彰式は、高専機構ともう一人の受賞者がいる久留米高専との３カ所をオンラインで結び実施されました。式では、谷口高専機構理事長から、「日本を代表する研究者になってください。」と激励がありました。

引き続き、日本高専学会研究奨励賞最優秀表彰及び福島高専特別表彰が行われ山下校長から賞状が授与されました。

齊藤さんの研究内容及び各表彰については、次のとおり

〇研究テーマ：
細胞生物 *Colpoda* 休眠シストの環境ストレス耐性と細胞修復機構に関する研究

〇発表実績等
これまでの齊藤さんの研究成果と研究活動は、Acta Protozoologicaをはじめとする査読付国際学術雑誌6報（うち4報がファーストオーサー）、国際学会発表10件（うち本人登壇4件）、国内学会発表6件、新聞掲載3件（いわき民報、福島民報、福島民友）等で発表されています。

〇各表彰について

1. 高専機構理事長特別表彰は、全国の高等専門学校から推薦され、高専理事長賞に表彰された者の中で、特に顕著な業績等により国立高等専門学校全体の名誉を高めた学生等について、表彰するものです。今年度は、全国で２名（他、久留米高専生）が受賞しました。

2. 日本高専学会研究奨励賞最優秀賞は、各高専に所属する学生の研究意欲向上および全国高専の発展のため、特に優れた研究活動を行ったと認められる専攻科生を表彰するものです。なお、今年度は、最優秀賞1名（福島高専学生）、優秀賞1名が表彰されました。

3. 福島工業高等専門学校特別表彰は、全国レベルの資格試験等の最上位合格者やTOEIC900点以上を取得した者など特に優秀な成果を挙げ、他の学生の模範となる学生を表彰するものです。今年度の受賞者は、1名でした。

オンラインで研究の報告を行う齊藤さん

谷口高専理事長からのメッセージをいただきました

山下校長から福島高専特別表彰を授与されました